

ある公立の美術館で借用した複数の作品が紛失、廃棄したのではとの新聞記事、学芸員が非正規で短期の入れ替りの情報不足が原因と。ここでも労働問題！

11月10日のゼミは斎藤幸平『人新世の「資本論」』7章「脱成長コミュニズムが世界を救う」を竹内さんの報告で行いました。成長優先である資本主義はコロナ禍の危機で矛盾が顕在化するが根本的対策が先延ばしされる。危機の時代では国家権力が全面にでるが、それが機能不全に陥る。この野蛮への回避は自治と相互扶助、コミュニズムであり、ピケティも参加型社会主義に転向した。デトロイトの都市再生・農業、コペンハーゲンでの現代の入会地の経験がある。脱成長コミュニズムの柱は、使用価値経済への転換、労働時間短縮、画一分業廃止、生産過程民主化、エッセンシャルワーカー重視にあり、物質代謝の亀裂を修復し、ブエン・ビビール(良く生きる)の実現、野心的な21世紀環境革命である。討論では、4つの選択のうち毛沢東主義とは、幸せな管理社会、東南アジアの政治体制の特徴。なぜ「コミュニズム」の用語を使うのか、これまでの用語使用と区別するためか。脱成長を主張することは、分配・平等の論点だけでないということ。自主管理についてはどうか、世田谷の保育園、関西生コンの経験。ケア労働・ケアの倫理：男性社会に対して女性が担うこと、ケア=気遣い。出席は、小野さん、川口さん、松村さん、斎藤さん、竹内さん、山口さんと高田の7名でした。

* 11月24日ゼミは、資本論3巻37章のS.639からです。

* 12月8日ゼミで、斎藤幸平『人新世の「資本論」』が終わります。次のテキストの候補本の推薦・提案お願いいたします。前回ゼミまでの推薦本：芦田文夫『「資本」に対抗する民主主義—市場経済の制御と「アソシエーション」』本の泉社,2021-10、青柳和身『マルクス晩年の歴史認識と21世紀社会主義』桜井書店,2021-10、岸本 聡子『水道、再び公営化！—欧州・水の闘いから日本が学ぶこと』集英社新書,2020-3、森田成也『ヘゲモニーと永続革命—トロツキー、グラムシ、現代』社会評論社,2019/2

* 12月22日ゼミの会場変更：天六・大阪市立住まい情報センター・5階研修室、地下鉄・阪急天神橋筋六丁目駅下車3号出口から連絡

***** ゼミ日程 *****

11月24日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

マルクス『資本論』第3巻6編37章 緒論・後半 報告小野さん

12月8日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『人新世の「資本論」』第8章 気候正義・ 報告竹内さん

12月22日(水)午後6時半～9時 天六・大阪市立住まい情報センター

マルクス『資本論』第3巻8章 差額地代 概説 報告者未定

その後 2022/1/12, 1/26, 2/9, 2/23, 3/9, 3/23 : アイクルの部屋

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso